

開催趣旨

本研究集会は、日本帝国下の高等教育のありかたを、東アジア史の文脈のなかで歴史的に再検討することを目的としている。近年の歴史研究においては、帝国史研究はもともと盛んに研究が進められている分野であり、帝国と学知との関連についても、さまざまな業績が刊行されている。しかしながら、そこには未開拓な領域も存在する。日本帝国下の植民地大学の研究はそのひとつである。たしかに、これまでの研究では、大学史、思想史、学説史など個別的な領域で植民地大学について言及したものは少なくなかったが、それらを相互に関連づけながら植民地大学の全体像を描こうとした試みは少なかった。また、日本の研究状況を東アジア諸地域のそれと比較検討することも、十分なされてきたとはいえない。

本研究集会では、このような研究の進展を踏まえ、東アジアの諸地域で第一線の研究者を招請し、日本の植民地大学の制度、学知、機能、遺産について研究報告と討論を重ねることで、研究状況の再確認と新たな課題の提示をするものである。そのことにより、東アジアにおける学問的共同体のありかたについて、なにがしかの示唆を与えるよう、努めたい。

また、植民地大学の生み出した学知を掘り返すことで、日本の植民地支配に関わる歴史的資料についても新たな知見を得られると期待できることから、本研究集会は、人間文化研究機構「日本関連在外資料調査研究事業」の一環としても位置づけている。

酒井哲哉

プログラム

2月10日(金)

レジストレーション

2月11日(土)

9:20～9:30 開会の挨拶 猪木武徳(国際日本文化研究センター所長)

9:30～9:50 松田利彦(国際日本文化研究センター)
「比較植民地大学史の可能性/不可能性」

Session 1 植民地大学の制度

9:50～10:10 歐素瑛(台湾・国史館台湾文献館)

「台北帝国大学と台湾学研究」

10:10～10:30 鈴木貞美(国際日本文化研究センター)

「帝国大学と日本の人文学の特殊性をめぐって」

10:30～10:50 通堂あゆみ(東京大学)

「京城帝国大医学部の機能と構造—医局講座制について」

10:50～11:10 討論者 劉建輝(国際日本文化研究センター)

11:10～11:40 質疑応答

—昼食—

Session 2 植民地大学の学知

13:10～13:30 金昌祿(韓国・慶北大学校)

「尾高朝雄と植民地朝鮮」

13:30～13:50 全京秀(韓国・ソウル大学校)

「京城学派の人骨研究と戦時人類学：今村豊の南柯一夢(?)と絆」

13:50～14:10 中生勝美(桜美林大学)

「台北帝国大学文政学部の土俗・人種学教室におけるフィールドワーク」

14:10～14:30 討論者 酒井哲哉(東京大学、国際日本文化研究センター客員教授)

14:30～15:00 質疑応答

—コーヒーブレイク—

Session 3 植民地大学の機能

- 15:30～15:50 鄭肯植(韓国・ソウル大学校)
「韓国における近代法学図書館の形成と京城帝大東洋法学書の特徴」
- 15:50～16:10 鄭駿永(韓国・翰林大学校)
「血の人種主義と植民地医学—京城帝大法医学教室の血液型研究」
- 16:10～16:30 鄭麗玲(台湾・台北科技大学)
「戦時期台北帝国大学の「学生生活調査」」
- 16:30～16:50 王泰升(台湾大学)
「台北帝国大学と植民地近代性の法学」
- 16:50～17:10 討論者 瀧井一博(国際日本文化研究センター)
- 17:10～17:40 質疑応答

2月12日(日)

Session 4 植民地大学の遺産

- 9:50～10:10 崔鍾庫(韓国・ソウル大学校)
「ソウル大学における京城帝大法学の遺産」
- 10:10～10:30 石川裕之(畿央大学)
「国立ソウル大学校の発展過程にみる植民地高等教育の『遺産』
—医科大学における教員組織の変化に注目して—」
- 10:30～10:50 松平徳仁(帝京大学)
「植民地主義と立憲主義のはざま—台湾に対する日本の植民地支配を題材として」
- 10:50～11:10 大浜郁子(琉球大学)
「琉球大学における「日本復帰」への道程」
- 11:10～11:30 討論者 浅野豊美(中京大学)
- 11:30～12:00 質疑応答

—昼食—

Session 5 総合討論

- 13:30～14:50 討論者 有馬学(九州大学名誉教授)
飯島渉(青山学院大学)
松田利彦(国際日本文化研究センター)
- 14:50～15:00 総括 酒井哲哉(東京大学、国際日本文化研究センター客員教授)

エクスカージョン 嵐山